

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- 1~2 能登半島地震での応急対策職員派遣制度による支援活動について
- 3~4 情報ひろば
- 5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センター MiRAI

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和6年(2024) 9月 Vol.107

能登半島地震での応急対策職員派遣制度による支援活動について

◆発災直後の対応

令和6(2024)年1月1日の夕方、石川県能登地方を震源とする最大震度7(マグニチュード7.6、震源の深さ16km)の地震が発生しました。

翌日には、総務省の応急対策職員派遣制度にもとづき、自治体の応援職員が現地入りすることが決定され、中部ブロックの県・政令市が総括支援チームとして被災市町に順次入っていきました(輪島市に三重県、珠洲市に浜松市、穴水町に静岡県、能登町に滋賀県、七尾市に名古屋市、志賀町に愛知県)。

総括支援チームは、被災市町村が行う災害マネジメントを総括的に支援する役割を担います。人と防災未来センターは、従来から大規模災害時には研究員が現地での支援活動に入っていますが、能登半島地震では、大規模災害対応への経験が比較的少ない滋賀県をサポートし、能登町を拠点に支援活動を行いました。

◆避難所運営への支援

応急対策職員派遣制度による枠組みでは、総括支援チームのマネジメントのもと、災害対応業務にあたる対口支援チームも派遣されます。能登町には、滋賀県(総括支援チーム)に加えて、茨城県、和歌山県、宮城県、岩手県が対口支援チームとして割り振られ、5つの県による応援体制で、現地での活動が行われました。

能登町では、1月4日の段階で、5,500人を超える被災者が避難所での生活を送っており、町職員は発災直後から夜を徹して避難所運営にあたっていました。まずは、応援職員が避難所運営に入り、町職員が役場に戻って復旧業務に専念できるようにすることが最優先になります。1月7日から順次、比較的規模の大きな避難所(広域避難所(小中学校)7カ所、準広域避難所(公民館など)12カ所)に各県の応援職員が貼りついていきました。

食料・燃料・生活物資などの物資搬送に関しては、自衛隊や町と協定を締結していた宅配事業者によって、道路が仮復旧されたところから順に、全ての避難所に届ける体制が築かれていました。

避難所運営に関しては、高齢者が多く、避難生活の長期化にともなう体調の悪化なども予想されるため、避難所の環境改善に早急に取り組むことが課題でした。町と段ボールベッドメーカーとの間で応援協定が締結されていたこともあり、メーカー従業員十数人とともに避難所に直接運び込む形がとられ、総括支援チームのリーダーシップのもと、1月16日から順次、広域避難所を中心に段ボールベッドが導入されていきました。

避難所への物資搬送や段ボールベッドの展開は、いずれも町が結んでいた災害協定が大いに活かされたケースであり、民間事業者との災害協定の必要性をあらためて認識することとなりました。



段ボールベッド導入風景

1カ月が経過した時点で、避難所は1,000人を切るまでの状態になります。応援職員についても住家被害調査などの業務に軸足を移していく必要があったことから、順次、準広域避難所の応援体制の見直しを行い、2月中旬には応援職員を配置する避難所は19カ所から9カ所(広域7カ所、準広域2カ所)になりました。

2月末には、鶴川地区で町内第1号となる仮設住宅(66戸)が完成し、その後も、仮設住宅の完成にともないながら、徐々に広域避難所も解消されていきます。4月末には、残された広域・準広域避難所が自治労ボランティア、JOC A(公益社団法人青年海外協力協会)などに引き継がれ、応援自治体による避難所運営を終えることになりました。

◆住家被害認定業務への支援

1月中旬からは被害認定調査がはじまります。建物の外観調査が中心となる一次調査は、おおむね1カ月程度で終わることが目安とされ、道案内役も兼ねる能登町職員と応援職員がチームになって、できるだけ効率的に町内をまわる形で進められました。

一次調査がおおむね終了し整理期間を置いたのち、3月15日からは応援職員を動員しての二次調査がはじまります。二次調査は、建物の内部調査が加わり、損壊割合の見立てなども行うことから一定の経験値やスキルが必要になります。日常業務として固定資産評価(家屋評価)に携わっている市町村職員を中心に構成する必要があったため、5県それぞれが管内の市町村にも声をかけての対応となりました。

能登町では、2人1組の調査班が1日あたり4件を処理するペースで調査が進められました。調査対象の規模、困難度合いによっては、調査終了が夜間に及んでしまうケースもしばしば生じましたが、応援職員も被災地の役に立ちたいとの高い意識で仕事に取り組んでいました。また、1日あたりの件数が増えれば増えるだけ、調査資料の準備もたいへんになるのですが、能登町の税務課職員が昼夜を分かたず対応しました。

二次調査は、最終的に2,000件を超える件数を処理し、5月末でいったん区切りをつけて応援職員としての業務を終えることとなりました。能登町の場合、2カ月強で2,000件を調査する体制としては、10班編成とそれほど大規模なものではなく、むしろ効率化で乗り切ったケースといえます。

◆5カ月に及んだ応援対策職員派遣

応急対策職員派遣制度による応援職員が担う業務は多岐にわたります。前述した避難所運営、住家被害調査に加え、被災者からの申請・相談受付(罹災証明、公費解体など)、物資拠点の4つがあげられます。後の2つについては、石川県からの応援職員も多数配置され、能登町には最も多いときで100人近い自治体からの応援職員が業務についていました。

能登町では、総括支援チームと対口支援チームの現地の窓口担当者(リエゾン)による朝ミーティングを最終の5

月末まで毎日欠かさず実施していました。リエゾンも頻繁に人が入れ替わるため議論の手戻りが出るのは承知のうえで、自由に意見を出しあえるリエゾン全員参加の朝ミーティングにより徹底的に意識あわせをしたことでチームとしての一体感をつくることができました。

能登半島地震では、応急対策職員派遣制度にもとづき、全国の自治体から非常に多くの応援職員が派遣されました。これだけ大規模なものになったのは制度創設以来はじめてのことです。5月末をめぐりに同制度による応援職員が現地を去り、現在は全国からの中長期派遣職員が多数配属されています。

◆さいごに

研究戦略センターでは、令和4(2022)年度から「南海トラフ地震発生時における行政の在り方に関する研究」を行っています。9月の研究会では、能登半島に派遣されていた総括支援チームのリーダーとの意見交換会も行ったところです。

能登半島地震での応急対策職員派遣制度による自治体間支援について検証することは、今後、南海トラフ地震などの巨大災害が起こった際の対応において必ず役立つはずです。応援側、受援側それぞれの側面からの検証についても引き続き協力していきたいと考えています。

なお、能登半島地震における自治体間支援については、地方公務員月報2024年8月号(総務省自治行政局公務員課編)の巻頭論文で詳しく紹介しています。



無傷で残った能登町のシンボル・イカキング

研究戦略センター 研究調査部長 行司 高博



旧・波並駅(のと鉄道廃線跡)にて

私は、地震発生の翌日に石川県入りし、今年3月まで人と防災未来センター職員として、4月以降は研究戦略センター職員として、5カ月間にわたって、自治体の応援職員と協調しながら現地支援・研究調査に関わってきました。被災地では、少しずつ震災前の平常を取り戻しはじめてはいえ、被災された方にとっては、まだまだ厳しい生活が続いているのは想像に難くありません。5月末をもって現場を離れたものの、被災者の皆さんが一日でも早くもとの日常を取り戻せるよう、これまでとは違った形にはなりますが、現地に寄り添った形での支援を続けていきたいと考えています。

情報ひろば

こころのケアセンター

阪神・淡路大震災30年・兵庫県こころのケアセンター設立20周年記念事業 「こころのケア国際シンポジウム」参加者募集

「こころのケアの30年～自然災害から子どものトラウマまで～」をテーマに、第1部では、こころのケアセンター設立20年を振り返る基調講演および自然災害の被災者支援をテーマとした鼎談を、第2部では、「子どもと家族へのトラウマケア」をテーマとした基調講演やディスカッションを行います。来場参加、オンライン視聴いずれも可能です。

- 日 時 = 11月27日(水)10時～16時
(受け付け9時30分)
- 会 場 = 神戸国際会議場301国際会議室
(神戸市中央区港島中町6-9-1)
- 主 催 = こころのケア国際シンポジウム実行委員会(兵庫県、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構)、ひょうご安全の日推進県民会議
- プログラム
 - 第1部 テーマ「自然災害とこころのケアー被災者への心理的支援」
 - 基調講演「こころのケアセンター20年の歩み(仮)」
加藤 寛(兵庫県こころのケアセンター長)
 - 鼎談
前田 正治(福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座主任教授)
加藤 寛(基調講演講師)
大澤 智子(兵庫県こころのケアセンター上席研究主幹)
 - 第2部 テーマ「子どもと家族へのトラウマケア」
 - 導入
亀岡 智美(兵庫県こころのケアセンター副センター長兼研究部長)
 - 基調講演1「効果が実証された治療とトラウマインフォームドケア」
メリッサ・ラニオン(ケンタッキー州公認心理師、TF-CBTナショナルトレーナー)
- 基調講演2「日本におけるトラウマインフォームドケアの意義と課題」
野坂 祐子(大阪大学大学院人間科学研究科教授)
- ディスカッション
コーディネーター 亀岡 智美(導入)
メリッサ・ラニオン(基調講演1講師)
野坂 祐子(基調講演2講師)
- 定 員 = 来場:180人 視聴:制限なし
- 参加費 = 無料
- 申し込み方法 = 来場、視聴ともに下記URLまたは右のQRコードからお申込みください。定員になり次第締め切ります。
<https://va.apollon.nta.co.jp/ists2024/>



【問い合わせ】

兵庫県こころのケアセンター 事業課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール jigyuu556@j-hits.org
<https://www.j-hits.org/>



加藤 寛



前田 正治



メリッサ・ラニオン



野坂 祐子

Webマガジン

Wonderful KOBÉ

2巡目の神戸。
明日は今日よりちょっと
幸せになる。

季節の特集、食や暮らし、SDGsの話題に、毎日更新するパントリーも。会員登録不要です。



ワンダフルコウベ編集部
(運営:株式会社 神戸新聞総合印刷)

研究戦略センター

第13回自治体災害対策全国会議のご案内

阪神・淡路大震災以後、世界各地でさまざまな大災害が多発する時代を迎えています。大災害は、その都度異なる形で襲ってくることから、これに的確に対応できるよう、全国の自治体職員が、自治体の災害応急対策や復旧・復興への取り組みなどを情報共有しつつ、今後予想されるさまざまな災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を開催します。

今回は、東日本大震災の教訓と課題をこれからの防災に生かすため、当時を知る学識者、行政関係者、住民団体メンバー等に経験と取り組み等を語っていただき、今後の災害に生かす方法を議論するとともに、復興の歩みを振り返り被災地復興の在り方を考えます。

- 日時 = 10月30日(水)、31日(木)
- 場所 = 仙台サンプラザ3階 クリスタル(宮城県仙台市宮城野区)

● プログラム

【1日目】

- 基調講演「東日本大震災の教訓と巨大災害への対応」

今村 文彦(東北大学副理事(復興新生担当)、
災害科学国際研究所教授、
復興庁復興推進委員会委員長)

- 特別報告「地震・津波等の防災に関する国の最新動向」

森久保 司(内閣府政策統括官(防災担当)付
参事官(調査・企画担当))

- 基調報告「南三陸町 東日本大震災からの創造的復興」

佐藤 仁(宮城県南三陸町長)

- パネルディスカッション「災害の教訓を伝え、復興の成果を今後の防災につなげる」

〈コーディネーター〉

佐藤 翔輔(東北大学災害科学国際研究所准教授)

〈パネリスト〉

山本 正徳(岩手県宮古市長)

須田 善明(宮城県女川町長)

青木 淑子(NPO法人富岡町3.11を語る会代表)

徳山 日出男((一財)国土技術研究センター理事長

(元国土交通事務次官・

東北地方整備局長))

○ 総括討議

室崎 益輝(自治体災害対策全国会議実行委員会
企画部会長、神戸大学名誉教授)

今村 文彦(基調講演講師)

栗山 進一(東北大学災害科学国際研究所長、
東北大学災害公衆衛生学分野教授)

【2日目】

現地視察

※プログラム内容は変更する場合があります

- 定員 = 180人(自治体職員に限らずどなたでも参加していただけます)

- 参加費 = 無料

- 申し込み方法 = 右のQRコードを読み込んでいただき、10月15日(火)までに「第13回自治体災害対策全国会議申込フォーム」からお申し込みください。なお、定員になり次第、受付を終了します。



【問い合わせ】

自治体災害対策全国会議実行委員会事務局
(研究戦略センター内)

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール zenkoku@dri.ne.jp <https://www.hemri21.jp/>

研究情報誌「21世紀ひょうご」第37号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。10月発行予定の第37号の特集では、今年3月にご逝去されました五百旗頭真前理事長をしのぶ追悼号として「減災社会、こころのケアの行方ー五百旗頭真前理事長を偲ぶー」をテーマに取り上げます。

【内容】

- 巻頭言 牧村 実 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長

- 特集 「減災社会、こころのケアの行方ー五百旗頭真前理事長を偲ぶー」

〈執筆者〉

河田 恵昭 人と防災未来センター長

加藤 寛 こころのケアセンター長

室崎 益輝 神戸大学名誉教授

御厨 貴 研究戦略センター長

【五百旗頭真前理事長を偲んで】

井戸 敏三 前兵庫県知事

村井 嘉浩 宮城県知事

蒲島 郁夫 前熊本県知事

- 「故五百旗頭真前理事長を偲ぶ会」開催報告

■ トピックス

- ・ 21世紀文明シンポジウム開催結果

▶ B5判 約120ページ

▶ 発行 = 年2回

※既発行号等については、当機構のホームページをご参照ください
<https://www.hemri21.jp/research/research-the21-hyogo/>

▶ 購読料 = 800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

【申し込み・問い合わせ】

研究戦略センター交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuutsu@dri.ne.jp

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展「石岡瑛子^{アイ}デザイン」

没後10年を経て国内外から再び注目を集める石岡瑛子(1938～2012)。広告、舞台、映画など表現のジャンルから国境までを超え、世界的に活躍したデザイナーです。本展では瑛子が、東京を拠点にしていた1960～80年代の仕事を中心に、センセーションを巻き起こしたポスターやCM、アートワークからスケッチまで400点以上の作品を一挙公開します。

■会期=9月28日(土)～12月1日(日)

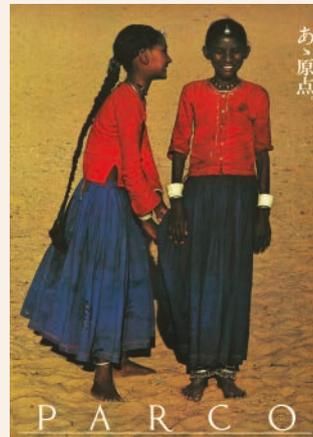
■観覧料=一般1,600(1,400)円、大学生1,000(800)円、高校生以下無料、70歳以上800(700)円、障害者手帳等をお持ちの方(一般)400(350)円、障害者手帳等をお持ちの方(大学生)250(200)円

※()内は団体料金

※一般以外は要証明書

◎休館日=月曜日(ただし10月14日(月・祝)、11月4日(月・振休)は開館、10月15日(火)、11月5日(火)は休館)

◎開館時間=10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで
 ※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください
 ◎問い合わせ TEL 078-262-1011



「あゝ原点。」PARCOポスター(1977)

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア)は、どなたでもご利用いただけます。完全禁煙で、子供椅子もご用意しておりますので、お子様連れも大歓迎です。月替わりエスニック料理は、いつもご好評いただいております。

10月は、アフリカ各国と神戸市民の交流イベント「アフリカ月間in神戸2024」が9月下旬から市内各所で開催されることから、東アフリカMix料理を予定しています。また、11月はAPEC首脳会議がペルーで、G20サミットがブラジルで開催されますので、南米ミックスプレートをご提供する予定です。



写真は9月のカリブ海ミックス料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間=(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
 ※各終了30分前ラストオーダー

■定休日=年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール ksictad@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→ <https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

商品やサービスを生かした社会貢献をご存じですか

日本赤十字社は、「人のいのちと健康、尊厳を守る」活動を共に推進して下さる企業・団体のパートナーを求めています。

商品やサービスに「寄付」という付加価値を与え、消費者へ購入による満足感と社会への参加意識の醸成を図り、ついでには、サステナビリティ活動の「見える化」によるブランドイメージの向上を図りませんか。

当支部では、商品のパッケージやサービスのチラシ等に「日本赤十字社への寄付」を表示し、売り上げの一部を寄付いただく仕組みを作って下さる企業・団体様を募集しています。

※日本赤十字社に対して一定額以上の寄付をいただいた場合は、税制上の優遇措置が受けられるほか、日本赤十字社と国からの表彰制度があります

ご支援事例

加藤産業株式会社様

「カンピー 780gジャム(シリーズ5品)」の瓶に寄付つき商品である旨を記載して販売され、売り上げの一部を日本赤十字社兵庫県支部の活動資金として寄付していただいています。



詳しくは、加藤産業株式会社様のホームページ「社会貢献活動について」をご覧ください。



◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



日本赤十字社 兵庫県支部
 Japanese Red Cross Society

夏休み防災未来学校2024レポート

人と防災未来センターでは、子どもから大人まで誰もが楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校2024」を7月20日(土)～8月24日(土)に開催しました。

例年人気の「ペットボトル地震計」「手作りラジオ」等の工作プログラムのほか、研究部による「ゲリラ豪雨マスターになろう!」等の防災・減災の知識を身に付けるワークショップなども実施し、多くの方にご参加いただきました。

1 減災グッズお買い物ミッション!

東館3階「ミッションルームB(コンビニ)」を会場として、災害時に起きるトラブルに役立つ品物をコンビニの商品棚から見つけ出し、なぜそれを選んだのかを参加者同士で確認し合うプログラムを実施。身近なものを工夫して使えば非常時に役立つことなど、災害時の備えや知恵を深め合う機会となりました。



2 タイムリミット17分 そなえチャレンジ体験ラリー!

「紙でお皿をつくろう!」「ポリ袋でポンチョをつくろう!」などのミッションの中から、くじ引きで指定された3つについて17分以内のクリアを目指す体験プログラムを実施。防災に役立つ知識を楽しく学びました。



3 研究部企画:ワークショップ ゲリラ豪雨マスターになろう!

オリジナルのすごろくを使ってゲリラ豪雨への備えを考えるワークショップを開催。災害が起きたときのためにどのような準備をすればいいのかなどさまざまな設問に対して、参加者がそれぞれ意見を共有することで、防災・減災の知識を身に付ける時間となりました。



4 絵本と紙芝居 おはなしひろば

「防災100年えほんプロジェクト」初のオリジナル絵本の中の一冊「おじぞうさんのおけしょうがかり」ほか、幼児や小学生に楽しく参加してもらえる絵本と紙芝居の読み聞かせを行いました。



5 ペットボトル地震計をつくろう!

NPO法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアムの協力で、ペットボトルや乾電池など身近な素材を使って本物と同じ仕掛けのペットボトル地震計を作るワークショップを実施。実際に机の揺れを用いて波形を取ること、地震計の原理を学びました。



6 サバイバル!手作りラジオに挑戦しよう!

ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルなラジオを手作りするワークショップを開催。実際に手作りラジオを用いて聞いてみるだけでなく、ラジオが非常時にも役立つことを学びました。



7 絵手紙を描いて気持ちを伝えよう!

筆の上の方を軽く持って描く絵手紙独自の持ち方を習い、好きなモチーフを選んで暑中見舞いなど大切な人に送る作品を描きました。小さな子どもから大人まで楽しく参加しました。



8 なんでもつかめる? ロボットハンドをつくらしてみよう!

自由に形が変わるロボットハンドの仕組みを学んだ上で、シリンジやゴム風船を用いて、手作りでロボットハンドを工作。少し難しい工程もありましたが、保護者やスタッフの力を借りて、それぞれ自分の作品を仕上げました。



9 8.10はHATの日? ステキなハットをかぶって集まろう!

センターの所在地であるHAT神戸の名前にちなんで、8月10日をハット(HAT)の日と定めた新たな地域イベントを開催。HAT(帽子)を被った参加者が集まったほか、帽子のない方も紙で帽子を作って参加し、地域交流のひと時を過ごしました。



10 新しいお祭りをプランしよう! 災害に強いまちづくりワークショップ

日頃から地域のつながりがあるまちは災害時などもしものときにも強いことから、阪神・淡路大震災以降にできた新しいまちであるHAT神戸で、地域交流の場となるお祭りやイベントを地域住民の皆さんと考えるワークショップを実施しました。



防災100年えほんプロジェクト 「第3回 防災100年ものがたり(絵本の原案)」を募集します

令和4(2022)年度に「防災100年えほんプロジェクト」を立ち上げ、災害から命を守るために大切なこと、防災・減災を推進する上で大切なことを数世代先の人々に届けるために「防災絵本づくり」をスタート。令和6(2024)年3月には初となる防災絵本3冊を発行しました。

このたび、今後発行していく防災絵本の原案となる「ものがたり」の募集(第3回)を行います。災害や防災・減災について、多くの人に伝えたい「ものがたり」を広く募るほか、今回は、阪神・淡路大震災から30年を迎えるに当たり、「震災30年・復興について」をテーマとした特別部門を設けます。応募期間は、9月1日(日)から11月5日(火)です。応募条件等詳細は特設サイトでご確認ください。皆さまのご応募をお待ちしています。

<特設サイト> <https://bosai100nen-ehon.org/>

■お問い合わせ

防災100年えほんプロジェクト実行委員会事務局
Eメール contact@bosai100nen-ehon.org



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:600円(450円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(200円) 大学生:200円(150円)

高校生、中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日

※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休

※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

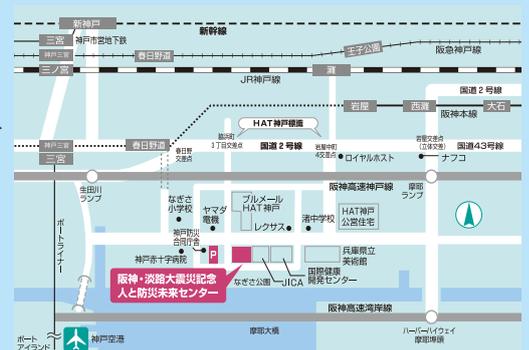
バス

- ・三宮駅前から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり



令和6(2024)年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースを開催しました

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14(2002)年度から実施しています。災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ4,200人が修了し、受講者から高い評価を得ています。

今回は、防災業務初心者から幹部職員までを広く対象に、4コース全てを会場にて実施しました。

アンケートでは、「新任の防災担当が持つべき知識が凝縮されており、総じて充実した内容だった」「講義だけでなく、他の自治体の方と横のつながりができ、情報共有できてよかった」「災害対応について必要な基礎知識と実践的な演習を網羅的に学ぶことができた」「実践的な内容で戻ってからも生かせることが多くあり、とても勉強になった」「全ての講義で内容が充実しており満足度が高かった。直近に発生した能登半島地震とリンクする内容が多く盛り込まれていて、理解を深めることができた」等の意見を頂きました。

コース名	日程	修了者数
ベーシック	6月5日(水)～6月7日(金)	66人
エキスパートA	6月11日(火)～6月14日(金)	36人
エキスパートB	6月18日(火)～6月21日(金)	32人
アドバンスト／防災監・危機管理監	6月25日(火)～6月26日(水)	25人
合計(延べ)		159人



Hem21 NEWS
vol.107

令和6年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください